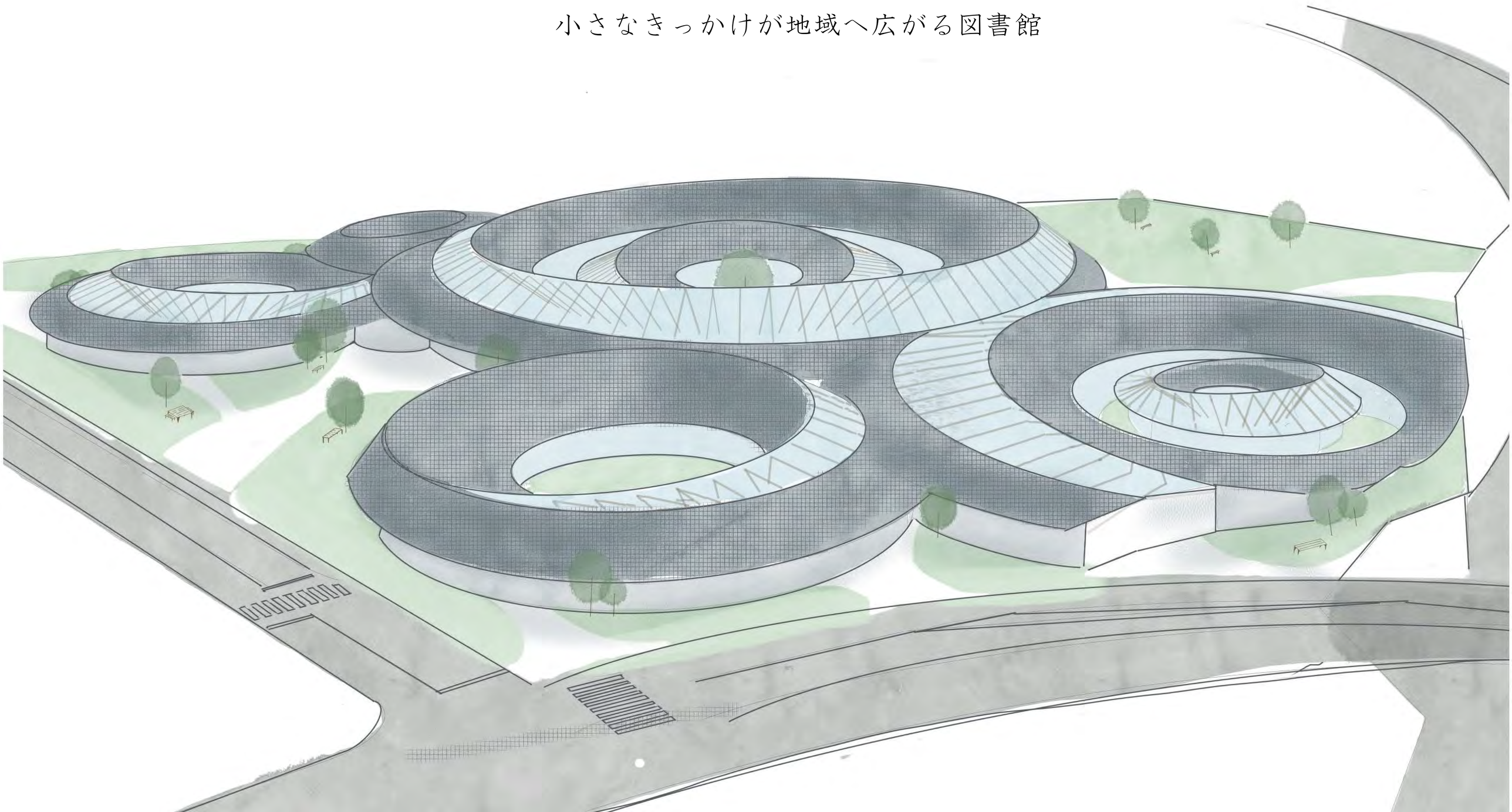
波紋

小さなきっかけが地域へ広がる図書館



10、配置図

配置図　S＝1/500

09－2、透視図

11、+α施設

大学生や地域住民が本を持ち寄り、自由に交換・販売できる場を計画した。学生が読み終えた本を次の人へつなぎ、お気に入りの本を交換することで、本を通じた新たな交流を生み出す。人と人、本と人、本と本がつながり、コンセプトである「波紋」が広がる空間を目指した。

早朝から夜まで、時間帯に応じたさまざまなマルシェを開催する。朝市やパン・コーヒーの販売、夕方の軽食など、図書館の利用シーンに合わせて変化することで、時間ごとに異なる居場所をつくり出す。

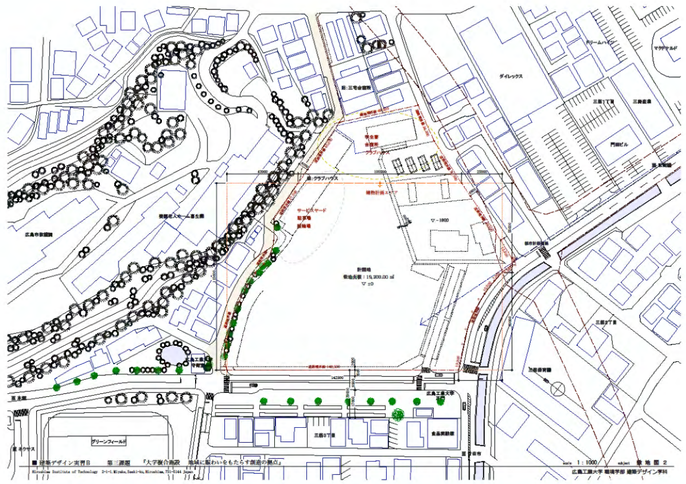
本を読むだけでなく、バスの待ち時間や散歩の途中、待ち合わせ、何もせずにただ座って過ごすなど、目的がなくても自然と立ち寄れる居場所を計画した。時間や目的に縛られず、それぞれが思い思いの過ごし方ができる図書館を目指している。

00、図書館の提案

近年、インターネットの普及により、すぐに手元で調べられるようになったことで、「図書館に行こう」と思って訪れる人は減っている。しかし、散歩の途中や雨宿り、待ち合わせなど、日常の中でふらっと立ち寄れる場所は人を惹きつける。そんな何気ない利用をきっかけに、本や大学、人との新しい出会いが生まれる図書館を提案する。

01、敷地

計画地は、工業大学のキャンパス内に位置するが、学生だけでなく地域住民も散歩や通り抜け、通学路として日常的に利用している。また、早朝や夜間にも人の往来が見られる一方で、気軽に立ち止まり、過ごせる居場所は少ない。さらに、五日市は一部埋め立て地によって形成された、水と深いかかわりを持つ地域である。

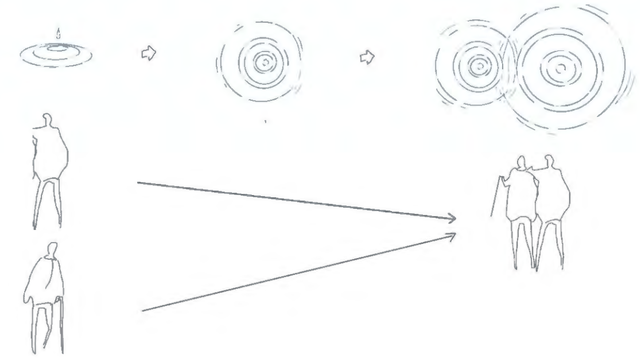


02、設計主旨

計画地は工業大学のキャンパス内に位置するが、学生だけでなく地域住民も散歩や通り抜けなど日常的に利用している。一方で、早朝や夜間にも人の往来があるにもかかわらず、気軽に立ち寄り、ゆっくりと過ごせる居場所は少ない。そこで、本を借りるためだけではなく、雨宿りや休憩、散歩の途中など、目的がなくても自然と立ち寄れる図書館を計画する。地域と大学をゆるやかにつなぎ、誰もが時間を問わず利用できる新たな居場所を目指した。

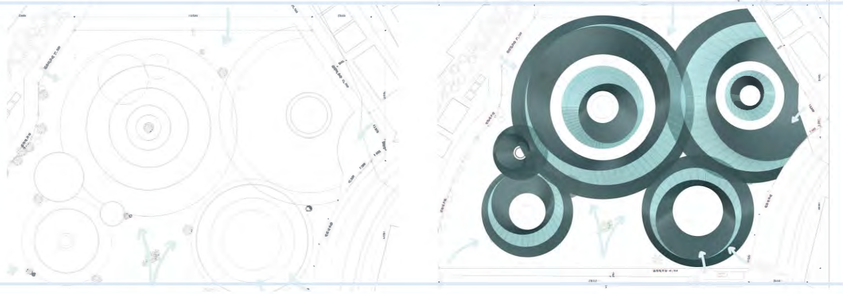
03、コンセプト『波紋』

一冊の本を手に取ること、一人が立ち寄ること。そんな小さなきっかけから、人と人、本と人、本と本がつながり、新たな出会いや交流が生まれる。そのつながりが重なり合い、波紋のように広がることで、さらに新たな波紋を生み出していく。この図書館は、知識や交流が地域・大学・人へと連続的に広がる場となることを目指す。

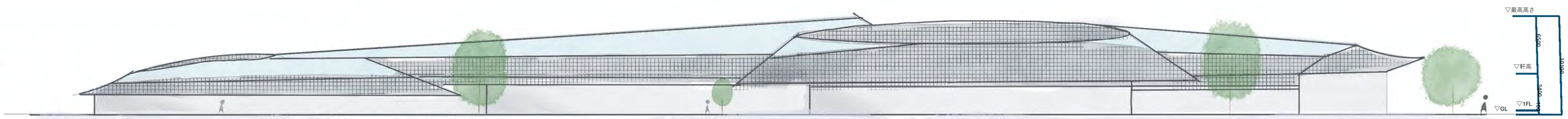


04、屋根

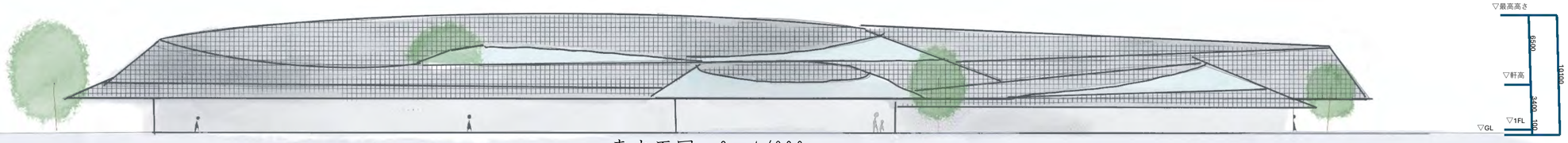
水面に落ちた雫のように、波紋は、周囲の波と重なり合うことで形を変え、同心円ではない多様な表情をつくり出す。その現象を屋根のデザインに反映し、屋根を複数の素材に分けることで、波紋が重なり合うような動きのある景観を表現した。
また、屋根は切妻屋根を基本とし、軒高を統一しながら棟の高さを変化させることで、全体にリズムと起伏を与えている。



05、立面図

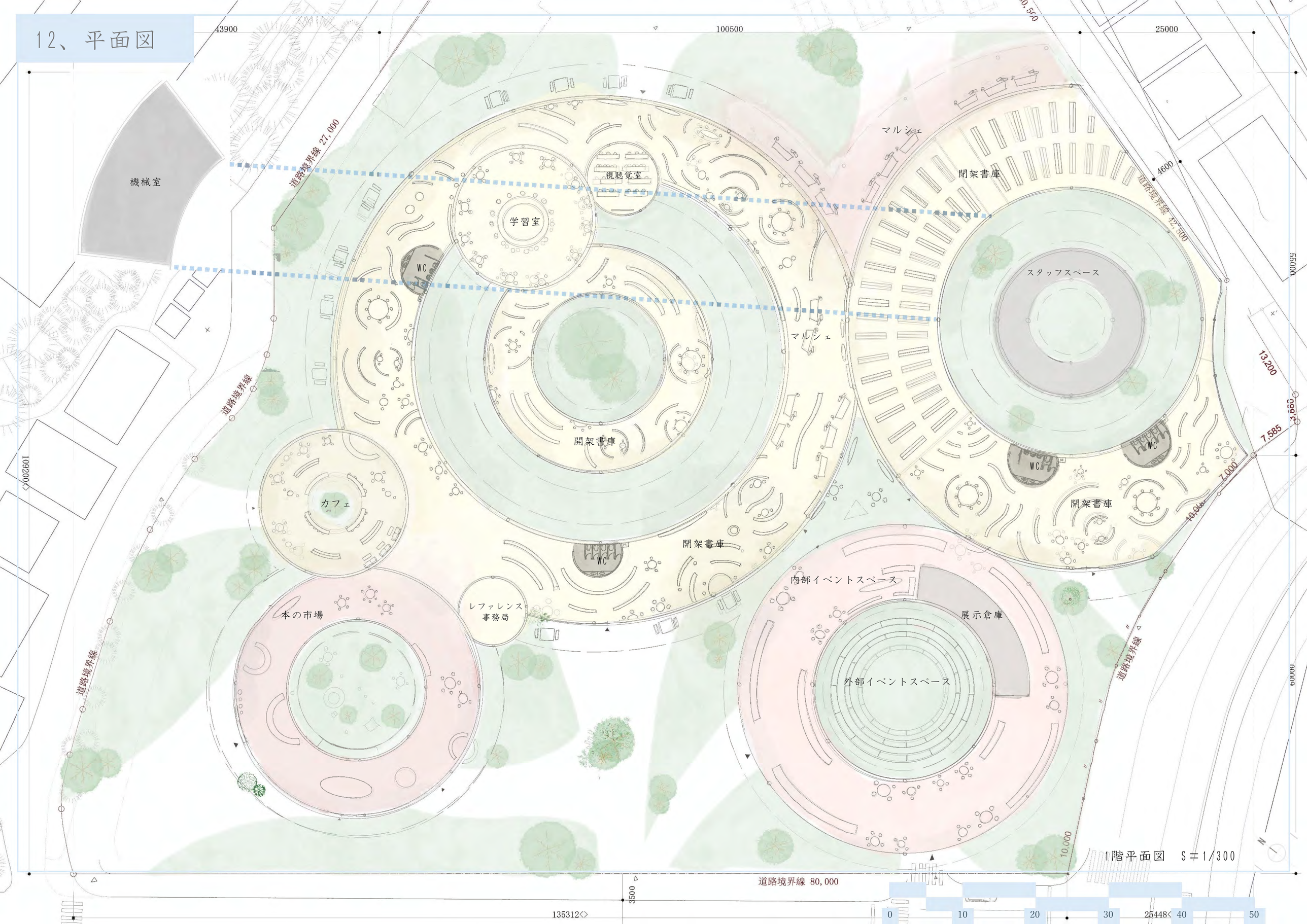


南立面図　S＝1/300



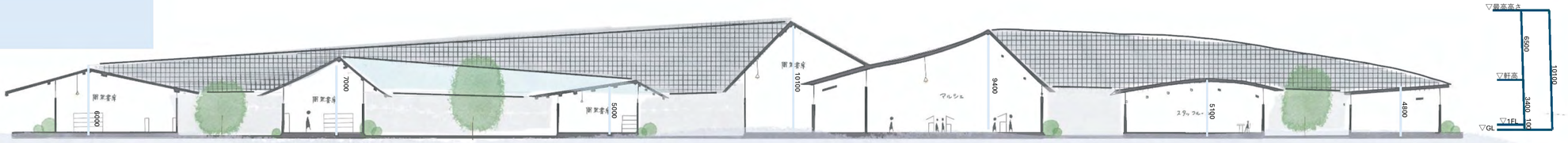
東立面図　S＝1/300

12、平面図

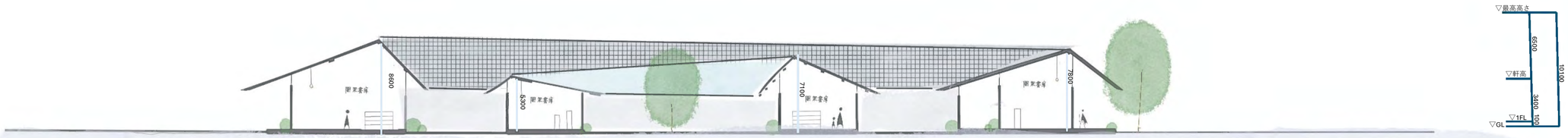


1階平面図　S＝1/300

06、立面図

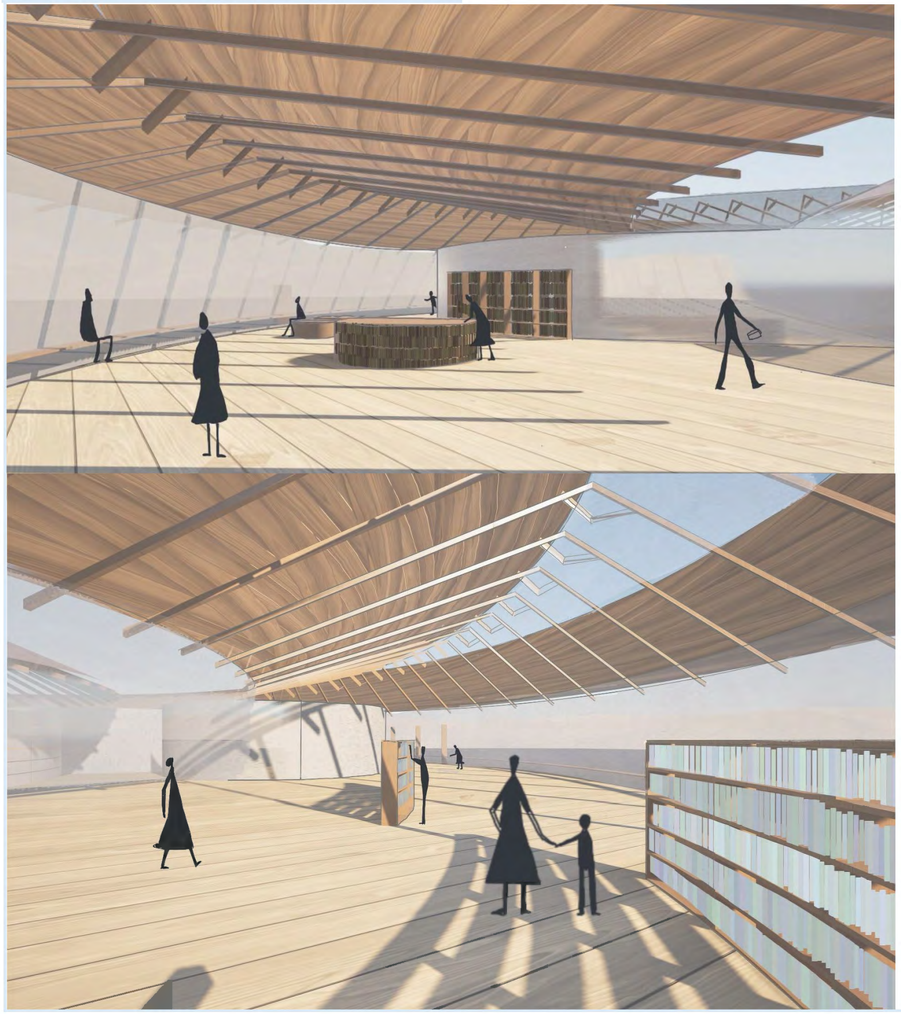


南断面図　S＝1/300



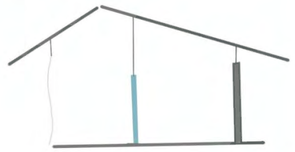
東断面図　S＝1/300

09－1、透視図



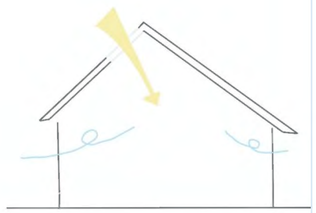
07、壁のボリューム

外側からカーテン・ガラス・壁の順に素材に変化させることで、中心から外に向かって空間の開放性を高めた。
境界を徐々に曖昧にすることで、人や活動が波紋のように広がる空間を表現している



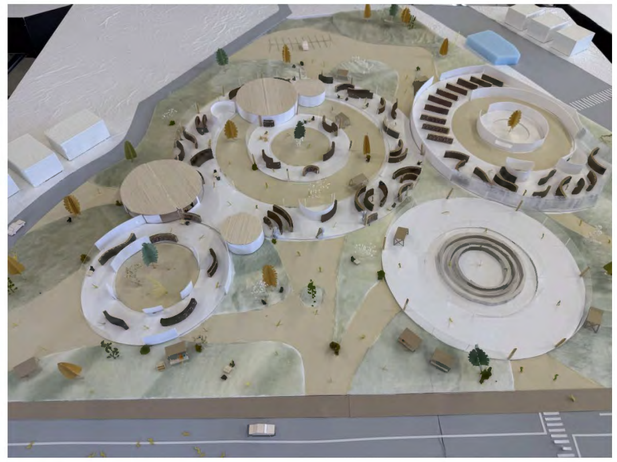
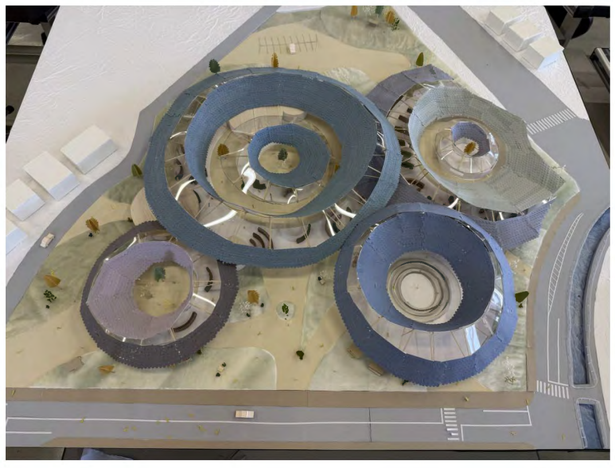
08、光と風

光と風を取り込むため、切妻屋根の軒高をそろえ、棟の高さに変化を付けた。
高さの差によって自然光や風を建物内部へ導き、快適な環境を生み出している



10、設計概要

□建築概要
用途；大学複合施設
構造；鉄骨造
階数；地下1階+地上1階建て
建築面積；11167㎡(58％)
延床面積；11667㎡(60.8％)

面積表	床面積
1階床面積	11167㎡
地下階床面積	500㎡
延床面積	11667㎡

11、模型写真